

埋蔵文化財  
探訪シリーズ

REKIMIN



>1<



埋蔵文化財を発掘調査する調査員（中垣内遺跡で）

埋蔵文化財って何？

今号から市内の主に最近の発掘調査の結果を、総合文化センター内歴史民俗資料館（略して歴

民・REKIMIN）の現地報告（ルポ）として、シリーズで掲載します。

「弥生のクニよみがえる」「邪馬台国がはうふつ」「よみがえる卑弥呼の時代」。つい最近、日本中で話題になった、佐賀県吉野ヶ里遺跡の新聞報道の一部です。この他にもこういった発掘調査の話題は、連日のようにテレビや新聞のニュースで取り上げられています。そのなかで遺構、遺物、遺跡あるいは、埋蔵文化財などという聞き慣れない言葉をよく目にしたり、耳にすることがあるでしょう。

遺構とは、過去の人々によって地面に残された痕跡のことです。建物の柱を立てるための穴、溝、田んぼ、墓穴、井戸、ごみを捨てた貝塚などをいいます。人間や動物の足跡さえ遺構といえます。

遺物は、人間が作り使った道具のこと、その材料

「弥生のクニよみがえる」「邪馬台国がはうふつ」「よみがえる卑弥呼の時代」。つい最近、日本中で話題になった、佐賀県吉野ヶ里遺跡の新聞報道の一部です。この他にもこういった発掘調査の話題は、連日のようにテレビや新聞のニュースで取り上げられています。そのなかで遺構、遺物、遺跡あるいは、埋蔵文化財などという聞き慣れない言葉をよく目にしたり、耳にすることがあるでしょう。

遺構とは、過去の人々によって地面に残された痕跡のことです。建物の柱を立てるための穴、溝、田んぼ、墓穴、井戸、ごみを捨てた貝塚などをいいます。人間や動物の足跡さえ遺構といえます。

遺物は、人間が作り使った道具のこと、その材料

埋蔵文化財  
探訪シリーズ

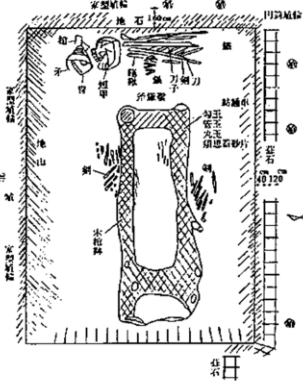
REKIMIN



>2<

堂山古墳群

（その一）



堂山古墳土壌および副葬品配置概要図（大東市史から）

正月に「金の鳥が鳴く」という言い伝えが残る堂山は、寺川四丁目にある標高八十メートルの小高い丘陵のことをいいます。ここに七基もの古墳が造られていたことを知る人なかも一番大きなものが堂山一号墳で、直径が約二十五メートルの円墳で、発掘調査によってたくさんのお供え物が出ました。古墳というのは昔の墓のことです。今日でも墓にお供え物をするように、古墳にもお供え物（副葬品）をしました。堂山一号墳からもたくさんのお供え物が出土しています。主な副葬品をあげます。

と鉄製のカブト、ヨロイ、鉄刀が十八点、鉄剣三点、矛一点、槍一点、鉄のやじり百九十八点があります。その他、死者が身に付けていた勾玉、管玉、ガラス製の玉が出土しています。古墳の周囲には六十九個の円筒埴輪が並べられ、家の形を模した埴輪もあつたようです。こうしてみると、副葬品には武器類が多いことが付きます。堂山一号墳は、五世紀中ごろに造られたと考えられますが、以後七世紀中ごろまでに、同じ丘陵上に二号から七号墳が造られました。

当時は、だれもが古墳を造ることができたわけではなく、古墳に埋葬される人々は、非常に限られていました。堂山一号墳には、いったいどのような人物が埋葬されたのでしょうか。

（次号につづく）